

NO	研修会を受講して良かった点	質問、気づき、今後への希望
1	<p>・普段の業務にとらわれて本質である介護とは・・・考えた時にやっぱり相手の気持ち(介助される側)を第一に考えることが大切であり、実際にポータブルトイレに座ってみたり、オムツを当ててみたりしないと気づかないことがこんなにも多くあるのだと気づきました。オムツ排泄後の交換がうまくできればそれでいい！！けれど、その後のことを考えてみませんでした。明日からは意識をもって介助にあたりたいと思いました。</p>	<p>・今回のことも含めて、当事者(介助されている方の)意見をもっと聞きたいです。私は急性期病院なので医療が先なのですが・・・それでも本人(患者さん)が思っていることをもっと聞いてみたいです。殆ど苦情(ナースコールの返答がないとか・・・が多いですが)。</p>
2	<p>・オムツ使用者の不快感がよくわかりました。しかもそのオムツ内に排泄物があったら、どんなに気持ちの悪い事か考えたらやるせない思いがしました。トイレでの排泄は大事なことです。</p>	<p>・トランスファー、ポジショニング(キネステ)研修を受けたい。できればお手頃価格で・・・。</p>
3	<p>・排泄動作の考え方、介助の仕方の工夫を知ることができた(引き出しが増えた)。排泄に至る一連の動作の再確認ができた。</p>	<p>・先進国の中では日本にしか拘縮がないという現状がずっと心に残っています。近い将来、ケアされる身としてまた、家族がケアされることを考えると、できて当然のことばかりだと思う。皆が共通の認識で、“されたいケア”がなされるように自分のできることをしたい。</p>
4	<p>・講師の方が試行錯誤しながら教えてくれることで、一緒に疑問が解けていき、頭の中に強く残ったと思います。とても勉強になりました。また、熱意が伝わり心が熱くなりました。ありがとうございました。</p>	<p>・ご飯に薬を混ぜたり、自分の(職員)都合に利用者さんをおこなっているように思うことが多々ありました。施設で介護していた時、「これが現実で、仕方がない事」とあきらめていた部分がありました。今日心から間違いに気づくことができました。</p>
5	<p>・実際にオムツをつけて歩く等、体験してみてわかったことが多かったです。いろいろな問題があり、こちらの都合ではなくその人にとって何がいいかを常に考えていくことが大切だと思いました。</p>	<p>・オムツの当て方が慣れていないこともあり難しいと感じました。相手がなるべく不愉快に思わないような当て方を勉強したいと思いました。</p>
6	<p>・ベッド～ポータブルトイレ移乗で、シートを利用した実演がみれた。 ・トイレ用リフトでの(ズボンの着脱等の)実際がみれてよかった。</p>	
7	<p>・それぞれの講師の思いや大切にされていることが伝わってきて良かったです。アットホームな雰囲気、楽しんで研修を受けることができました。</p>	<p>・「排泄」は人の尊厳に直結しやすい部分であり、人に介助されるのが恥ずかしかったりするので介助者にとってはもっと神経を使い大切にすることが必要だと思いました。</p>
8	<p>・初めてオムツを装着し、動きやすさや動きにくさ等体験できた。実際介護する方の大変さがわかった。相手の動きを引き出す介助方法を学べた。事例検討でき、いろいろな意見を聞き学べた。</p>	<p>・様々な事例を検討したい(排泄動作)。研修ありがとうございました。</p>
9	<p>・私たちが対象者の動きを理解して誘導すると同時に、うまく機器を利用することで、対象者にとっても私たちにとってもメリットがあるという点を学んだ。</p>	<p>・ポータブルトイレ等の機器の特徴を教えていただければと思います。</p>

10	<p>・大事な事、大切なことと理解はしているが、日々の業務の中で忙しさにかまけて手順や「ま、いいか」と流してしまっていることがあります。研修を受けることで改めて大事さを確認できました。</p>	<p>・大きく排泄と考えるのではなく、一連の動作ひとつひとつをしっかりとアセスメントして、丁寧にケアしていけたらと思いました。</p>
11	<p>・前回の受講から1年たちます。学んだことを忘れていました。職場では、いろいろな疾患の方がいます。その方たちが食後臥床されて側臥位～端座位で立ち上がる行為の時、ポジショニングや習ったキネステティクスを思い出し実践していますが、今回学んでヤル気がおこりました。ありがとうございます。自分の腰をいためない介助をやっていこうと思いました。</p>	
12	<p>・研修会で習った事のある体身体の動かし方等、忘れてしまったり、こうであると頭が固くなっている部分の自分の見直しことができました。オムツ交換のみではなくいろんな動きと頭でわかっている、いざ動く(介護しようとする)と自分がどう動いていいのかわからなくなりました。その人に合わせた動き方、排泄方法等、頭を柔軟にして考えることをもう一度考えることができよかったです。</p>	<p>・研修を受けても忘れてしまっている自分で、自分の中に少しでも長くとどめていたいの、研修の必要性をいつも感じます。忙しさにかまけて研修から遠のかないように自分をしっかりともちたいです。</p>
13	<p>・自動排泄処理装置に関わっていて、介護の現場で「排泄」について感じる人が多いので、今日の研修会に参加しました。「排泄」介護については個人の意向はもちろん、周辺環境も大きく関わってきます。住宅の状況、介護者の状況、身体の状況、また、金銭の状況を考えなくてはいいけません。そのためには、さまざまな引き出しが必要と実感しています。私たちメーカー側も勉強が必要です。今日のオムツの交換のための介護の仕方、身体の動かし方は改めて勉強になりました。いかにご利用者様に負担なく、快適にオムツ交換を実施したいと常に思っています。きっと答えはひとつではないので、いろいろなことに対応できるように今後も勉強していきたいです。</p>	<p>・実際に「マインレット」を導入しに行っても、この人は「マインレット」より「ヒューマニー」で対応できるのではないかと思ったり、「マインレット」や「ヒューマニー」を使わなくても「ポータブルトイレ」で対応できる人もいました。先日は、「スカットクリーン」を使っているけど、夜間は「マインレット」を使いたいという人にも出会いました。私たちは、何がご利用者にとって最善か常に考えてお答えしたいと思っています。そのために引き出しを多く持っていたいし、メーカーとしても、提供できることはお伝えしていきたいと思えます。</p>
14		<p>こんど、紙おむつをしてオシッコをしてみようと思う。</p>
15	<p>・患者家族の立場で参加しました。わからないことばかりですが、専門職の方たちもわからないことがたくさんあるんだなとわからないことをわからないと言い合え、一緒に考え合う雰囲気での研修会で良かったです。 ・講師の先生方がわからないことがあった場合に、講師同士で意見の交換をしながらの姿が良かったです。答えは一つではないということですね。だからこそ、より良い介護方法が見つかるんだろうなと思いました。 ・1コマ目。大山先生による講義「排泄ケアの課題への挑戦 気付いていない排泄ケアの課題 諦めていませんか？」を受講した時、涙が何度もあふれました。普段はなかなか泣かない私です。母の気持ちを代弁してもらえたからです。「おむつの中ではなく座って排泄がしたい」ただそれだけです。身体状況が許すのであれば、人手不足の中でも、何とか工夫して日に一度だけでもトイレやポータブルトイレで排泄させてあげたいです。</p>	<p>・実習で使った紙おむつをもち帰りました。 寝ているときに紙おむつ体験をしようと試み、朝方3時すぎに排尿をしたくて限界になるまで待ちました。しかし、紙おむつをして寝たままオシッコをしようとしたのですが、できませんでした。現在、入院中で寝たきりの母は尿意や便意があるにもかかわらず紙おむつの中でしてもらっています。毎回、「お母さんごめんね」とつぶやいていますが、本当に、母には申し訳ないなあと思いました。家族がいるときだけでも、なんとかポータブルトイレでの排泄を病院側が許可してくれないかなあど・・・強く思いました。</p>